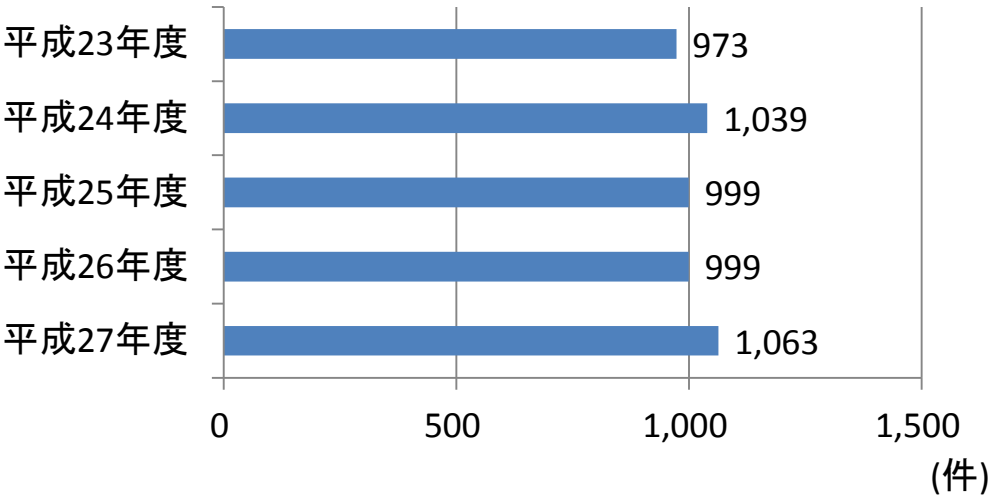


21 術中迅速病理組織診断件数

解説	術前診断の難しい疾患においては、手術中の病理診断に基づいて手術方法や手術範囲が選択されます。手術中という限られた時間の中で、迅速かつ正確な病理診断を行うには、院内の体制作りが重要です。 通常の細胞診や組織診であれば、院外への外注も可能ですが、術中迅速診断は一刻を争うものであり、切片の用意から診断まで院内で完結する必要があります。「最後の砦」機能を持つ国立大学病院として、高度な医療が総合的に提供されることを示す指標です。												
実績	 <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成23年度</td> <td>973</td> </tr> <tr> <td>平成24年度</td> <td>1,039</td> </tr> <tr> <td>平成25年度</td> <td>999</td> </tr> <tr> <td>平成26年度</td> <td>999</td> </tr> <tr> <td>平成27年度</td> <td>1,063</td> </tr> </tbody> </table>	年度	件数	平成23年度	973	平成24年度	1,039	平成25年度	999	平成26年度	999	平成27年度	1,063
年度	件数												
平成23年度	973												
平成24年度	1,039												
平成25年度	999												
平成26年度	999												
平成27年度	1,063												
定義	「N003 術中迅速病理組織標本作製(T-M/OP)」の件数です。 平成23年度から算出方法をレセプト算定ベースに切り替え、平成21・22年度の数値は、半年分の実績を2倍して年間の推計値として表示します。												